

社会的視野を広め、表現力を育む新聞活用のあり方を求めて ～心を耕す記事との出会いや道徳の授業を通して～

指定校第1年次 佐久市立岩村田小学校 代表 岩田 典久

I 本校のNIEの現状

本校は全校児童1063名、各学年5～6学級の大規模校である。教育活動の重点（全校研究テーマ）に、「心と体をはたらかせながら学ぶ子ども」を据え、各教科・領域での学習はもとより、学校行事など日々の学校生活のあらゆる場面で、「心と体をはたらかせる学び」を構想し、実践し、省察することで、学校教育目標「ひとりになれる ひとつになれる」の具現に努めている。

児童の新聞に対する実態をアンケートで把握してみると、多くの家庭で新聞を購読しているが、子どもたちが目を通す記事は、テレビ・ラジオ番組欄やマンガ、スポーツ欄が多く、ニュースや地域の話は少ないことがわかった。日頃よく見たり使ったりするものとしては、テレビ、本、インターネットを挙げた子が多かった。また、教師のNIEにかかわる取り組みをみると、特に「NIE」を意識しての活動は行っていなかったものの、何らかの形で、新聞を扱ったことのある教師は多く、新聞を活用する良さを実感しつつも問題点を指摘する声も聞かれた。



写真1 岩村田小学校 正門より

そこで、本年度、NIE実践校の指定を受け、新聞を活用した授業作りをするために、高めたい力を①社会的事象に興味・関心を持つ。（視野を広げる）②自分の考えを持ち、自ら表現する力と設定し、日頃の学校生活や教科等の学習でどのような活用ができるかを考えることからスタートした。

II NIE実践のねらい

高めたい力

- ①社会的事象に興味・関心を持つ
（視野を広げる）
- ②自分の考えを持ち、自ら表現する力



育てたい子ども像

- ①社会に目を向けることができる子ども
- ②自分の意見を持ち、表現できる子ども
- ③情報を活用できる子ども（さがす・選ぶ・読み取る・利用する）

III 研究の概要

1 実践した教科・領域

・国語 ・社会 ・総合的な学習の時間 ・特別活動（学級活動）

2 新聞の提供状況

(1) 10年度 購読計画表

新聞名	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
朝日		○		○		○		○		
毎日		○		○			○	○		
読売	○		○		○		○			
日経	○		○		○					○
産経		○				○			○	○
信濃毎日	○				○	○			○	

※購読計画とは別に、学校として信濃毎日新聞を年間購読。

3 新聞を取り入れた実践をする上で工夫したこと

- (1) 日常的な活動（記事のスクラップ、朝の＜新聞＞スピーチなど）を継続したこと。
- (2) できるだけ今旬な記事をタイムリーに活用しようとしたこと。
- (3) [（１）（２）に関わって]

研究テーマにより迫るために、一つのテーマを決め、そのテーマに関連した記事をスクラップしていき、それらをまとめたりそのテーマについて考えたりする授業（<u>テーマ性のある活用</u>）を仕組んだこと。	タイムリーな活用 ・新聞に親しむ活動 「4コママンガの活用」 「文字さがし」 「見出し作り」など ・新聞で考える活動 「写真」→感想（低学年） 「記事」→感想・意見（高学年）	テーマ性のある活用 ・テーマを設定してのスクラップ [環境、福祉、思いやり、ボランティア、輝いている人など] ・テーマ記事をもとに 「意見・感想」→発表 「話し合い」→考えを深める 「意見」→まとめる（作文）
	図1-1-1 新聞活用授業の展開	

IV N I E実践の内容

1 3年生の実践

- | | | | |
|---------|---|--|--|
| ①題材名 | 「おとしよりの名言を『かるた』に」 | (学級活動) | 3年 |
| ②目 標 | <p>新聞記事「お年寄りの名言かるたに」を読み、見出しにあるお年寄りの一言について感想を発表したり、お年寄りに対する自分の思い（一言）をかるたに表現したりする活動を通して、お年寄りに対する尊敬と感謝の気持ちを持つ。</p> | <p>百歳まで健康に暮らすには、お年寄りの名言をかるたに表現し、お年寄りに対する尊敬と感謝の気持ちを伝えることが大切だ。</p> | <p>百歳まで健康に暮らすには、お年寄りの名言をかるたに表現し、お年寄りに対する尊敬と感謝の気持ちを伝えることが大切だ。</p> |
| ③評価の視点 | お年寄りの持っている人生の知恵やユーモアを新聞記事から感じ取り、尊敬や感謝の気持ちをかるたに表現することができたか。 | | |
| ④本題材の時数 | 2 時間 | | |

第1時・敬老の日（9/20）について確認（経過や意義）
 する。

- ・新聞記事「お年寄りの名言かるたに」を読む。
- ・記事を読んで感想を持ち、発表する。（全体）
- ・見出しにあるお年寄りの一言について感じたことや思ったことを書き、話し合う。（グループ、全体）

第2時・前時を想起し、本時の課題を確認する。

- ・お年寄りに対する自分の思い（一言）をかるたに表現する。〔一人一組（読み札、絵札）〕
- ・作ったカルタを紹介し合う。（グループ、全体）
- ・活動をふり返り、感想を持つ。

[illegible]

お年寄りの一言についての感想

「百歳まで生きなさい へっちゃらへっちゃらの 鹿の河童です。」
 百歳まで生きることをおそれないよ
 うな人だしてねだともおそれないよ
 生きるような気がしてきました。

ふしは、とっていても かつよしと合
 っているかといがった あってきま。

「幸せはくるものじゃなくて、つくるものだ」
 幸せは、自分で来たりしないから、自分で楽し
 みをみつけたりして 幸せをつくるのが大切にか
 ら、とてもいい言葉だと思いました。

幸せはくるものって思ってたけど、つくるものてい
 は、さすが長生きている人だねーと思ひま。

百歳になったことこそが、自分でつくる幸せなんじゃない
 と思ひま。

子どもたちが作ったカルタ



2 5年生の実践

(1) スクラップテーマ「人」・・・「私が注目した人」(学級活動+家庭学習 5年)

東大出身初のJリーガー誕生

サッカーのJリーグに初の東京大学出身選手が誕生します。東大サッカー部の久木田紳吉さん(22歳)＝写真＝で、J2(2部)のファジアーノ岡山に加入します。都市工学が専攻です。久木田さんは熊本市出身。小学3年でサッカーを始めました。熊本高校に

進み、毎日1時間半の予習を欠かさず、授業に集中して現役で東大に合格しました。大学のサッカー部ではFWとして活躍。ファジアーノ岡山の練習に参加し、持ち味の速さなどが評価されました。早ければ今季中のJリーグデビューもあります。



朝日新聞

この人物に影響された点、感想、意見など

小学3年生から読んでいて、とても勉強したんだなーと思いました。
 小から始めたんだね。

K・Tさんが注目した人(記事)

朝日小学生新聞 2010.10.31



長野電鉄で初の女性運転士
 熊谷 美由紀さん 26

「鉄道にかかわる運転士に憧れていた」と思っていた。長野電鉄 長野市 初の女性運転士、夢をかき、「おきまの命、それなれに抱えた大切な時間や事情も一緒に運んで」と責任の重さを感じている。

安曇野市。2003年に秋田県の大卒に通信教育で学んだ、開業列車を初

命運が重責感じながら

運転中、列車に向かう手

に人が集まり、街がでかい感じがした。入ることに勇気を感じた。入ることに勇気を感じた。入ることに勇気を感じた。

S・Mさんが注目した人(記事)

信濃毎日新聞 朝刊 2010.11.6

この人物に影響された点、感想、意見など

夢がぶじかなって
 してもよかった。
 そうだね。初の女性って
 みんなにも夢を与えるね。

S・Mさん、教師のコメント

K・Tさん、教師のコメント

近ごろ私はすぐ空腹になる。そして、つい食べ過ぎてしまう。普段からよく食べるほうだったが、最近は特によく腹が減る。先日までは就職活動など忙しく、しっかり食べられなかった。しかし就職活動が一段落すると、精神的に気が楽になり、規則正しい生活が送れるようになった。そのせいだろうか。食べた時の幸福感も食欲と同じように大きい。生きていることに喜びすら感じる。こうしておいしく食べ物を食べられるのも、健康で生きているからこそ感じるのだと思う。風邪をひいたり、歯が痛かったりすれば、

健康でおいしく食事 感謝の思い

ものがおいしく感じなくなる。重い病気になれば食べたいものも食べられなくなる。健康で生活し、おいしく食べられることを感謝する半面、それは今だけのことだと考えてしまう。将来を不安に思う時があるからだ。だからこそ、今という時を大切に、食べるもの一口一口を味わっていきたくと思った。そして私においしい料理を食べさせてくれて、いろいろな思いを実感させてくれた方々に感謝したい。
 飯田市 赤坂亜依梨 (高校生・17)

M・Hさんが注目した人(記事)

信濃毎日新聞 朝刊 2010.10.25

この人物に影響された点、感想、意見など

命を食っているということ
 は、感謝しなければいけ
 ないなあと思いました。
 そうだね。
 感謝して命を食べているからね。

M・Hさん、教師のコメント

(2)「思考力をみがく」 ～読んで考えよう～ (学級活動 5年)

私は学校での学習の中で、戦争と平和について勉強するため、松代にいる戦争を体験した方のお話を聞きました。その中で私は、戦争は多くの人が犠牲になる、とても恐ろしいものだと心から思いました。

私たちに話を聞かせてくれたその方は、亡くなった人を何人も見てきたそうです。また私たちは、松代大本営の象山地下壕のつくり方を聞いて、とても大変だったことが分かりました。昔は機械がなかったため、ダイナマイトを詰めて爆発させ、岩を崩してその崩れた岩を、トラックやモッコで運んで、毎日同

じことを繰り返していたそうです。

戦争について深く知らない私たちは、もっと戦争について知ることが必要だと思いました。そして戦争で亡くなった人たちのためにも、二度とこのような恐ろしいことが起きないように、いろいろな人たちに伝えなくてはならないと思いました。これからも平和が続くように、一人一人の人間が大切にされる、いじめなどが無い世の中にしていきたいです。

長野市 畔上 楓
(中学生・13)

私の家は両親が共働きで、母が帰ってくるのは7時すぎになります。私が学校から帰ってくるのは5時前後で、洗濯物が干してある日は、まず洗濯物を取り込むのが私の日課です。

最初は2人の姉と当番制でやっていましたが、2人とも部活をやっていたので結局ほとんど私が取り込まなくてはなりません。自分の当番の日じゃないと取り込まないと、せっかくなので洗濯物が冷たくなってしまい、いつも母に注意されました。私が中学に入ると姉たちは高校生で、受験の忙しさもあり、家にいる時間が

働く母の役に立てるよう手伝う

少なくなつて、やはり私が洗濯物を取り込まなくてはなりませんでした。

中学3年生の今でも、家に帰ると必ず洗濯物を取り込みます。ご飯が炊いてなければ、それも準備します。仕事から帰ってきて疲れている母の手伝いは、とても大切だと思っています。たくさん手伝えるわけではないので困らせてしまっていることも多いと思います。だから私は、少しでも母の役に立てるようになりたいと思います。

諏訪市 桑貝 暁
(中学生・14)

信濃毎日新聞 朝刊 2010. 11. 11

K・Tさんが感じたこと、教師のコメント

私だったら、「知らなくていい」と思うのに、戦争のことを知ろうとしていて、えらいなあと考えた。そうやって考えることは大切ななあと考えた。私だったら自分と自分の立場に置きかえてみるね。

K・Tさんのとらえ

自分やクラスの立場など広い視野で読み取ることができる。感じる心を持っている。

M・Hさんが感じたこと、教師のコメント

人間、一人一人がとても大切ななあと思いました。私のおじいちゃんも戦争に行っていました。3年間も中国にいたのによく生きて帰ってこれたなあと思いました。昔、犠牲になられた人で、今、生きていく人なんてほとんどいないと思います。私のおじいちゃんも、23歳という若さで戦争に行き、今また生きていてびっくりします。本当に戦争で恐ろしいものだと分かりました。

M・Hさんのとらえ

人の生き方の素晴らしさを大変深い部分で読み取り、自分と重ね合わせて読むことができる。

S・Mさんが感じたこと、教師のコメント

私も両親が共働きで、1人1人が7時ごろです。1人1人姉と家業でつかまえてると思うから、私も母の役にたてたいです。

S・Mさんのとらえ

記事の中からその素晴らしさをとらえ、自分と重ね合わせて考える良い気づきができる。

そう思える さんて、すごいなあ～

(3) 全校研究授業

①主 題 名 『人の生き方に学ぶ』

出典：信濃毎日新聞 2010年11月4日

「広州アジア大会 挑む県勢 バレーボール 峯村沙紀」

1－(2)より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。

②本時の位置 2時間扱いの第2時

③主 眼 新聞記事を読み、峯村沙紀選手の生き方や考え方の素晴らしさを感じとった子どもたちが、互いに感じた点について考えを伝え合ったり、「自分だったら」という視点をもって考え合ったりすることを通して、友だちの考えを取り入れながら峯村選手の素晴らしさをより確かにとらえなおし、自分の高い目標に向かって希望と勇気を持ちくじけないで努力することの大切さを感じることができる。

④指導上の留意点

- ・新聞記事を読むことの抵抗を軽くするため2時間扱いとし、資料内容の読み取りがしやすいように教師から補足説明も交えてその記事を読み、その内容について、感じたことをあらかじめ書かせる時間をとった。
- ・子どもの心に届くように、笑顔で、柔らかい言葉で、子どもの目を見て語りかける。
- ・教師が子どもの所に歩み寄り、いい表現があったら、さりげなくその考えの良さを認める。

⑤本時の展開

5年2組 男子16名 女子16名 計32名
授業会場 5年2組
授業者 酒井 啓喜



信濃毎日新聞 2010. 11. 4

段階	学習活動	発問・予想される子どもの反応	教師の支援 評価	時間	備考
導入	1 前時を想起し、本時の学習について知る。	「土曜日のバレーボールの日本対ブラジル、おしかったねえ。いよいよアジア大会も始まりましたね。峯村選手は今日、中国の広州に移動するそうです。」 「先週みんなで読んだ同じ長野県出身の峯村選手についてそれぞれ、みんな注目している所がいろいろありました。すごい所がみんなちがったんだよ。今日は峯村選手のすごい所をみんなで考えてみよう。」	・アジア大会が始まり、活躍している選手の記事を見せ、バレーボールで、長野県出身である峯村選手が参加することを確認し、より身近な人だと感じることができるようにする。	5	・学習カード ・アジア大会の記事
	2 峯村選手のすごい所をみんなで考える。 ・どこに線を引いたのか確認する。 ・線を引いた場所から感じたことを発表し合う。	学習問題 みんなで峯村選手のすごい所を考えてみよう。 「では、まずどこに線を引いたのか、そこから発表していこう。では、一番上のブロックに線を引いた人いますか？」 「では、この場所から感じたことを発表していこう。」 「〇〇さん、ここの所で書いていたよ	・線を引いた場所を確認することで、同じ所を選んだ友だちも違う所を選んだ友だちもいるということが感じられるようにする。	30	・拡大した記事

展

開

ね。発表して下さい。」

<活躍に関して>

- ・長野県にこんなすごい選手がいるとは知らなかった。
- ・2度も代表選手入りするなんてすごい。
- ・全国の上位選手なんだなあと思った。
- ・自分の夢がしっかり持っていていいと思った。
- ・サーブやレシーブやスパイクの決め方を考えていてすごい。ぼくだったらできない。

<東レでの境遇について>

- ・「何が足りないんだろう」と考えられるのがすごいと思った。いいと思った。
- ・悩みは深まったけど、それがもっと頑張った方がいいことに気づかせたと思う。
- ・東レではユニホームを着られなかったのに、リーグ戦でピンチサーバーとして出番が増えて、練習に励んでいたのかなあと思った。
- ・私なら、あきらめちゃう。
- ・苦しかったのに、やめなかったのがすごい！私だったら、続いていなかったと思う。

<松本大会での転機について>

- ・なんでユニホームを着られなかったんだろう。
- ・笑顔で声をかけるのは、みんな良い気持ちになると思う。
- ・ベンチにいてもしっかり仲間のことを応援しているんだなあと思った。
- ・元気な笑顔で盛り上げるというのがいい。
- ・盛り上げるとチームに勇気が出る。
- ・応援でも笑顔でいる。いい事だと思った。
- ・ベンチの外で応援に回ったなんて。自分が出れなくて応援だけしかできないのに、くやしいと思うが、応援できるなんて、優しい。

<おばあちゃんの教えについて>

- ・亡くなった祖母から教わったこと、それを覚えていたから、この地に立てたんだと思う。
- ・おばあちゃんの「元気な笑顔」で盛り上げることという教えのおかげかなと思った。いつでも笑顔でいられる所を

- ・事前に書いてある記入の様子から考えた指名計画を生かし、意図的に指名することで、話しやすい発言の順になるようにする。

- ・「自分だったら...」という意見に対して、そう考えるわけを問い直したり、他の人はどう考えるか問い返して、みんなが自分だったらという視点を持って考えられるような場を作り出す。

- ・全体で話す時は、黒板の前ではなく、教室中央の空間に立つことで、子どもが仲間の方を向いて発言し、考えを聴きやすくなるようにする。

- ・同期の小平選手との関わりについて資料を提示し、理解を深められるようにする。

- ・同じ意見には自分の言葉で発表するように促すことで、自分の意見とするという意識が持てるようにする。

・小平選手との資料

		見習いたい。 ・沙紀選手のおばあちゃんは、沙紀選手がニコニコになるために、2525円をわたしていてすごいと思った。 ・「ニコニコ」の意味でもらったお小遣いを、私だったら、いつまでもとっておくと思う。 <自分らしさについて> ・確かに、元気じゃ試合に出られないけど、「周りの人にはない自分らしさを自力で見つけて、その自分らしさを生かせるといいと思う。そこが沙紀さんのいい所なんじゃないかと思う。 ・私も自分らしさを考えてみたいと思った。 ・沙紀選手は、自分を高めていてすごいと思った。	・子どもの意見の内容によって、父親の保さんに電話でインタビューをして教えてもらったことを話す。 ・「くじけそうになる自分を高めていてすごい」という意見について、なぜそう思ったか問い返すことで、より高い目標に向かっていく峯村選手の前向きな姿勢に気づいていけるようにする。	
終末	3 友だちの考えを取り入れて、自分の考えを見直し、発表する。	「友だちの考えも取り入れて、もう一度自分の考えを見直して、感想を書いてみよう。」 <評価> 高い目標に向かって希望と勇気を持ってくじけないで努力することの大切さを感じとることができたか。	・机間支援として、少しでも表現が豊かになっている所に○をつけ認めることで、子どもが考えた実感を持つるようにする。 ・峯村選手のすごさをより深く感じ取ることができるようになったり、見習って、これからの生活に生かそうとしたりする気持ちの表れた子どもの感想を紹介することで、今日の学習の良さを感じることができるようになる。	10

V 研究のまとめ

1. 研究全体に関わって

- (1) 研究テーマに行きつくまで、試行錯誤しながらの授業実践や活動になり、研究に見通しが持てない時期もあったが、試行錯誤する中から、また子どもの姿からテーマが据わり、新聞活用のあり方が見えてきたように思う。
- (2) 来年度は、実践校2年次としての取り組みになるが、全体研究の重点および内容との関連を図って、NIEのテーマ、研究内容を考えていきたい。

2. 実践授業に関わって

(1) 成果

- ① 日常的な活動（記事のスクラップ、朝の＜新聞＞スピーチ）の継続が、子どもたちの視野を広め、話題も広まること。また、新聞に自らかかわろうとする態度を育てること。
- ② 新聞を活用した授業を行う場合は、今旬な記事をタイムリーな活用の仕方で行う授業と、一つのテーマを決め、そのテーマに関連した記事をスクラップしていき、それらをまとめたりそのテーマについて考えたりする授業が考えられること。
- ③ ある一つのテーマに基づいて、新聞記事を集めていくことで、集めた記事は増え、子どもたちの生活に新聞が浸透していく。集まった記事を眺めて「あっ、私もこの記事にしたよ。」「この記事にしようか迷ったんだ。」「やっぱりそれを選ぼうと思った。」など、新聞を媒介にした話題が広がっていったこと。
- ④ 記事のコメントについても、始めは「すごい」の一言ですませていたのが、分量が増えたり、その人のどんな所に感動したのかを詳細に書くようになってきたこと。

(2) 課題

- ① 新聞記事の内容が、子どもたちにとって興味・関心を持てるものであっても、タイムリー（新鮮な）記事でないと、その価値は半減してしまうこと。
- ② 授業を行うにあたって、授業者がその新聞記事以上にその記事について知識を持ち、子どもたちに補足説明を行うことで、子どもたちの理解も深まり、出会わせたい価値に少しでも近づくことができること。
- ③ 「はじめに新聞ありき」ではなく、その学習でなぜ新聞を使うのか、新聞のよさは何か、そして、記事から何を考えさせ、どのような価値に出会わせたいのかをしっかりと検討することが大事であること。

本校公開授業（全校研究授業）を伝える新聞記事



くびけない生き方とは

佐久市岩村田小5年2組

中国・広州で開催されたアジア大会は、県内出身の選手も参加している。佐久市岩村田小学校5年2組の児童らは15日の朝の授業で、バレーボールの審判選手・長野市花巻中・中丸文彦選手を招いて、中国選手と対戦した。中国選手は、高い目標に向かって、練習を怠らず、つけないで努力する。競技者としての姿勢から、「くびけない生き方」を学んだ。

「くびけない生き方」とは、子どもたちは、審判選手・中丸文彦選手が、バレーボールの審判選手として、中国選手と対戦した。中国選手は、高い目標に向かって、練習を怠らず、つけないで努力する。競技者としての姿勢から、「くびけない生き方」を学んだ。

「すごいところは」「自分なら」感想出し合う

審判の東に所属する審判選手・中丸文彦選手は、バレーボールの審判選手として、中国選手と対戦した。中国選手は、高い目標に向かって、練習を怠らず、つけないで努力する。競技者としての姿勢から、「くびけない生き方」を学んだ。

「すごいところは」「自分なら」感想出し合う。子どもたちは、審判選手・中丸文彦選手が、バレーボールの審判選手として、中国選手と対戦した。中国選手は、高い目標に向かって、練習を怠らず、つけないで努力する。競技者としての姿勢から、「くびけない生き方」を学んだ。

ここがポイント

信毎NIEアドバイザーから

友達の考え 受け止めて

小学校高学年の児童には、ある人の生き方にあるが、夢や希望を膨らませながらも、夢と現実の違いに心が揺れ動くことがよくあります。審判選手・中丸文彦選手は、中国選手と対戦した。中国選手は、高い目標に向かって、練習を怠らず、つけないで努力する。競技者としての姿勢から、「くびけない生き方」を学んだ。

友達の考えを受け止めて。子どもたちは、審判選手・中丸文彦選手が、バレーボールの審判選手として、中国選手と対戦した。中国選手は、高い目標に向かって、練習を怠らず、つけないで努力する。競技者としての姿勢から、「くびけない生き方」を学んだ。